DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
パチュリー・ノーレッジ
快発記録

し…失礼します

ガチャ…

パチュリー様

朝食をお持ちしました

ふわ……ぁ…

あら……？

今日は小悪魔じゃないのかしら…？

——最初のきっかけは

体調を崩した小悪魔さんの代わりにパチュリー様の身の回りの雑務を任されたことだった

う——…

食事の用意
お召し物の調達
寝ぐせ直し
読み終えた本の片付け
等々…

普段の司書の
仕事とは毛色の違う
ものがほとんどだったが

戸惑いながらも
細かな雑務は
概ね問題なく
こなすことができた

しかし…

えーと
あの本は…と

無防備な
パチュリー様に
何日も付きっきりで
いるうちに

むにゅ…

だんだんと
司書見習いとして
抱いてはいけない
劣情が膨らんでいき…

薄暗い図書館の奥
次に読む本を探そうと
立ち上がった
パチュリー様の後ろで

その感情を
爆発させて
しまった

パ……
パチュリー様…っ

ガタッ

ちょっと…

ギシ

ギシ…

や…め…

あん…た
今日はやけに
無口だと思ったら…

こんなこと
考えてたのね
……ッ

すみませんっ…

あっ…

もぞ

むぎゅっ

もぞ

パチュリー様と二人きりでいたら……もう…

や…

ずるる

やだっ…

まっ…て…

いつ魔法で焼かれても仕方ないと覚悟はしていた

パチュリー様の身体を味わった後に死ぬなら悔いはない…と

[redacted]

しかし
終わった後も
パチュリー様は
黙ったままで

はっ…

はっ…

はっ…

これほどのことを
してしまったのに

プピュ…

トロ…

魔法で焼かれる
どころか
何らかの罰を受けたり
解雇を言い渡されたり
することもなく

はあ…

はあ…

ピクン…

ピクン

小悪魔さんが復帰した後も
まるで何事もなかった
かのように振る舞う
パチュリー様が逆に
不気味だった

そして…

TOILET

見習いは色んな雑用をやらされがちだけど

その中でも一番きつい仕事だよなトイレ掃除……

ゴシ

ゴシ…

葛藤は最初よりも少なかった

ドクン

ドクン…

ガチャッ

この好状況と性衝動に負けて

またパチュリー様を…

こ…のっ性懲りもなく…

ここ何処だと思ってるのよ……っ

ぬぷぷ…

くちっ…

忘れられないんです……

パチュリー様の感触がっ…

ゾク…

やめ…て……ってば

だめっ
ズチュッ
ギシッ
あっ
ズプッ
あっ
ブチュッ
ギシッ

ぬいて…っ
チュッ
ぬいてっ…え…
マスチュ
[redacted]

パチュリー様の膣中…この前よりも濡れが早い…？
たぶん気のせいじゃない…

前よりもトロットロで…
ガタッ
あっ…う…
ぱぢゅ
ガタ
あっ
締めつけも強くなってて…

突くたびに柔らかいヒダが押し返してくる
めちゃくちゃ気持ち良いっ…
ずりっ
ぎゅっ
ずりっ
ぎゅむ
[redacted]

ぶるっ
ッ…あ
そこ…だ…め

あっ…あ…あ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

……！

パチュリー様の……

ぴちゃ

ぴちゃ

はっ…あ

あっ…あ…

すごい…軽く痙攣してる…

ピク

はあ

はあ

あ…

ピク…

膣中の…とくに弱いところに当たったのか…

この日からだった

パチュリー様が絶頂する姿をもっと見たいと思うようになったのは……

「罰されたらそれまで」と
開き直って…

あっ

サ
ア
ア
ア…

やっ…あ

ぱん

たぷっ

たぽっ

小悪魔さんに
ばれない場所と時間を
見つけては

執拗に
パチュリー様の身体を
なぶり続けた

バスルームにまで
入って…
くるなんて……っ

どういう神経
してん…のよ
……っ

ぐぷ

ぐちゃ

ぢゃい

パチュリー様が
裸でいるって考えたら
いても立っても
いられなくなって…

ぱん

ぱん

ぷっ

ぷるっ

うっ

ぐっ

ビクッ

ヘン…タ…イ…

こ…ここが弱いんですよねパチュリー様…

あっ♥

あっ♥

あっ♥

そこ

や…め

ぶるっ

ぎゅっ

くりっ

回数を重ねるごとにイくまでの間隔が短くなって

次第にイき方も激しくなり

イッ♥

ビク

ビク

ビク

パチュリー様の身体がどんどんスケベになっていくのを全身で感じた

…っ

ピクン

ピクン

は…

へっ…

へ…

イった後も念入りに

む!?

だ…

キュッ♥

コリ

コリ

め…

パチュリー様が反応するあらゆる部分をいじくり回して…

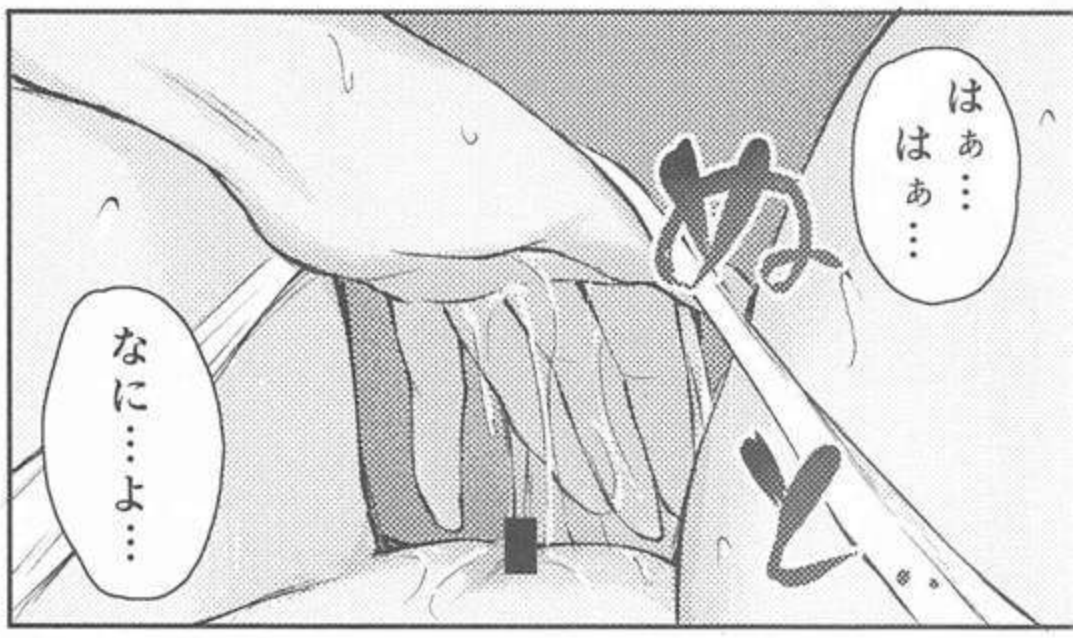
くにゅ

くにゅ

くにゅ…

挿れなくても陰核(クリトリス)を刺激するだけで軽い絶頂をするようになった頃には

魔法で焼かれるかもしれないという恐れもなくなっていた



もしかして…

カチャ…

カッ…

ん…

もぞ…

カッ…

カッ…

パチュリー様…

シュル…

布団越しに音が聞こえてます……

はっ…

はっ…

あ…

はっ…

くちゅ…

……どうせ…あんたが襲いに来るだろうから

ギシ…

夜はいつも部屋の鍵閉めてたのに…

カ ア ア ア…

よりによって今日閉め忘れるなんて…

閉め…忘れ…そうですね…

スルル…

あっ

ぬと…

でも…そのおかげでお昼の続きができそうです…

今度は時間を気にせずに……

ハァ…

や…ちょっと…

ハァ…

ぬちゅ

くちゅ…

まって…

もっとゆっくり…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

じゅっ

ぐりぐり…

ガク

ガクッ

ん…っ…ん…っ

ぎゅ

じゅわ

わわ…

パチュリー様…また敏感になってます…

ひくひくっ♥

ぐぷ…

挿れただけですぐにイってしまうなんて…

ふ…

ふ―っ…

んっ…

ふ―っ…

膣中(なか)もめくれそうなくらい吸い付いて……

んんっ…

くっ…っ♥

びろっ…

ずるる…

ズッ♥

ズッ♥

ぐいっ

あっ…あ

あ♥

ひあっ♥

あんた…のせい…で…しょ……

はっ♥

はっ♥

こんなスケベな身体に…

私のカラダの…色んなと…こ…

ぢゅっ♥

ぢゅ♥

たぷ♥

ピンッ

たぷん♥

しっこくいじくり回すから…ぁ…っ

朝も夜も……っ

ぱん♥

ふぁ♥

ぱん♥

ぱん♥

あっ♥

ヘンな気分になってしょうがないのよお……っ

……ッ

それにしたって……

ぐぽぐぽ♥

ぎゅっ

ぎちっ

締めすぎですっ……

膣中が……搾り取ろうとしてきて……

だって……

だってぇ……

へっ♥

へっ♥

ビクッ

うっ……

ぐぽぐぽ♥

ぐぽぐぽ♥

…ッ
ぐっ…く
…ッ
ビクッ
ビク
ドク
ドク
トロン。
ハア…
すみません…気持ちよすぎてつい……
ハア…
はあ…
はあ…
はあ…
……
ん…っふ…
ギシッ
…っ
パ…パチュリー様っ…
ギシ
え……
もぞ…
くちゅ
たんっ♥
たん
たん
ぬぷ
くぷ
う…
自分で…腰を……
はっ…
ギシッ
はっ…
ギシ
はっ…

なに…ボーっとしてん…のよ

わかるでしょ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

こんなえっちなカラダにしたんだから…

ドクン…

あぅっ

ぢゅっ

ぢゅぱっ

ぱっ

ぱっ

好きなだけっ……

ぐっ

ぎゅっぎゅっ

ビクン

あっあっ

あっ

そ…れすぐっ

ぶるっ

イ…ぐ…

あ…お

イッ

ビダ

ビダ

ビダ

ビダ

お…

ピクン

ぴゃ

ぴゃ

ぴゃっ

あ…

沢山イって下さい…

ピクン

ぱん

ぱん

だ…

ギシッ

めっ

いまだめ

んひ

シーツは後で僕が替えますから…

ギシッ

ぎゅっ

今は頭真っ白にして…

気持ちよくイくことだけ考えて……

ふあ…

ぷりゅっ

ぐいっ

ぐぢゅっ

ひゅっ

あっ

あっあっ

ぐぢゅっ

ぐぢゅっ

あ…あ…

ぐぢゅっ

ぐぢゅっ

ぐぢゅっ

イッぴゃう
あっ
うっ…
今までで一番強く締まってる…っ
ビグ
ビグ
ビグ

——この時
パチュリー様は

ぬぽ…

限界を超えるほどの
快楽と刺激で
意識が朦朧としており

ふるっ…

あ…

はぁ…

はぁ…

はぁ…

…♡

ピクン…

体力も尽きて
ほとんど動けないような
状態なのに

ピクン…♡

声にならない声で
『もっと…』と
訴えかけていた

ひくっ…♡

ひく…♡

大図書館の主
パチュリー・ノーレッジ
にはまだまだ

身も心も
ドスケベになる余地が
残されていそうだ…

どうも、てちでございます。
今回はパチュリーをどんどんエッチにしていく本になりました。

身体を開発していくシチュエーションというのは初めて描いたのですが
パチュリーのように少しサバサバした感じのキャラがだんだんと
自らの欲に抗えなくなっていくのが想像以上に良くて、
個人的には今回のキャラ選びに非常に満足しております。

余談なのですが、この原稿を仕上げている最中に突然モニターがまともに
映らなくなり、買い替えに行かざるを得ないアクシデントに見舞われました。
締め切り直前のタイミングでそれはないだろ…と
今後このようなトラブルは勘弁願いたいものです。
壊れるにしてももっと余裕のある時にしてくれ…

ともあれ、本誌をお手に取っていただきありがとうございました。
それではまた機会のある時まで…

てち

誌名：パチュリー・ノーレッジ快発記録
発行：てこめんち
発行者：てち
発行日：2020年8月9日
（東方名華祭14）
Twitter：@Techi0001
e-mail：techi35499@gmail.com

原作：上海アリス幻樂団　様
印刷：大陽出版株式会社　様

※18歳未満の購入・閲覧を禁じます
※本書のweb上への無断転載・複製を禁じます。

Touhou Project fanbook
Presented by Tekomenchi